

糸魚川市駅北大火被災者・関係者説明会 議事録

日 時	平成 30 年 11 月 26 日（月）10：30～11：45	場 所	ヒスイ王国館 2 階ホール
件 名	<ul style="list-style-type: none"> （1）被災者の再建状況について （2）各種支援制度の実施見通しについて （3）駅北地区におけるにぎわいの創出について <ul style="list-style-type: none"> ・復興まちづくり市民会議における検討状況について ・にぎわいづくりの展開について ・にぎわい創出広場の整備について （4）その他 <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック別意見交換会の開催 ・駅北大火 2 年事業の開催 		
出席者	糸魚川市	米田市長、木村副市長、見辺産業部長、斉藤復興推進課長、五十嵐建設課長、大嶋商工観光課長、横澤健康増進課長、小林市民課長、川合福祉事務所長、他担当係長	
	被災者関係者	25 世帯 31 人（被災者関係者以外の一般参加者 6 人）	
	報 道	1 社（上越タイムス）	
会 議 要 旨			
開 会 あいさつ (米田市長)	<p>被災者・関係者説明会の開催にあたり、一言あいさつをさせていただきます。</p> <p>あと 1 か月ほどで大火から 2 年を迎えようとしています。大火発生以降、被災された皆さまの一日も早い再建に向けて、皆さまと一緒に取組を進めて参りました。</p> <p>道路拡幅や防火水槽の整備も概ね完了に近づいているほか、被災地内で再建を希望される住宅や店舗の多くもほぼ立ち揃ってきております。</p> <p>このように短い期間のなかで、目に見えて復興が進んでいることを実感できるのも皆さまのご理解とご協力の賜物であり、改めまして感謝を申し上げます。</p> <p>これからの復興まちづくりにおいては、当面の復旧・復興の局面から、にぎわいの創出や高齢化、居住人口の確保といった難しい課題への取組に局面が移って参ります。</p> <p>にぎわいづくりについては、新しいところに作るよりも、今まであってそれがなくなったところに作り出す方が難しいわけであり、例えば食料品店なども身近なところにあったわけですが、それがなくなり、今多くの要望が出ていますが、なかなか難しい部分があると感じています。</p> <p>このことから、これまで以上に皆さまとの連携を深め、みんなのまちは、みんなで育てるという「まち育」の志を持って取り組んでいくことが大切だと考えております。</p> <p>本説明会の開催について年内は、本日が最後の予定にしております。</p> <p>住み慣れた場所で、また新しいお宅で、年越しと新年を迎える方も多くいらっしゃるかと存じます。まずは、ごゆっくりとお過ごしいただき、大火から 2 年のご苦労を癒していただくとともに、来たるべき新年が、被災前よりも住みやすく、そして訪れたいくなるようなまちづくりに向けた弾みの年となりますよう引き続き皆さまと一緒に取組んでいくことをお約束申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。</p> <p>本日は、よろしくお願いいたします。</p>		

議題（１）

議題（２）

（１）被災者の再建状況について
（２）各種支援制度の実施見通しについて
一括説明：斉藤復興推進課長

【質疑】

（男性１）

健康相談の訪問について支援が必要な世帯は個別に訪問継続とありますが、具体的にはどういう世帯を指すのですか。というのも、保健師や看護師さんが非常に精力的に回ってきていただいて被災者にとっては大変心強い取組を続けて来ていただいた。私のところのブロックも間もなく全て完成して戻るという状況になる。今まで全戸回っていただいて手厚く見ていただいたのを少なくとも３年間はやっていただきたいという気持ちがあり、１２月で終わりとなると２年で終わりとなるので、要望として平成３１年の１２月までやっていただけないかと思いますが、色々な兼ね合いがあると思いますので、個々に支援が必要な場合について説明していただければ、それならいいかなという風に思えるかもしれません。希望としては、今まで通り全部、３年間やっていただきたいという気持ちです。

（横沢健康増進課長）

全戸訪問は今まで７回、１２月には８回目の訪問をさせていただき予定にしています。今後も継続して訪問させていただき世帯は約３０世帯ほどありますが、皆さんと話をさせていただきなかで、精神的にまだ不安定だと思われる方や高齢者の世帯、障害をお持ちの方ですとか訪問を続けるかどうか皆さんと相談させていただき継続的に伺わせていただく予定です。１２月４日から６日にかけて伺う際には、再度皆さまに相談させていただき希望をお伺いしたいと考えています。また、保健師による定期的な健康相談も行っているため、そういう相談窓口や医師による相談会などもご紹介させていただきながら今後につなげていきたいと考えています。

（男性１）

了解しました。

（女性１）

固定資産税・都市計画税の軽減についてですが、今年中に建築が終わっていないと軽減がないということでしょうか。実家がまさに年の間際に入居できるかどうかという状態なので詳しく教えてください。

（小林市民課長）

固定資産税は毎年１月１日現在を基準日としています。その時点で完成していない場合は、住宅が建っているものとして軽減されていた分は、いったんなくなります。もし間に合わない場合は、平成３１年度は土地の税金が少し上がるということでご了承願います。年内に完成してしまえば、住宅が新築されたとして軽減が継続されます。

（女性１）

どういう状態が建築されたとみなされるのでしょうか。今年中に入居することが確実なのですが、なにか法的な手続きとかはあるのでしょうか。

議題（３）

（小林市民課長）

実際に入居される状態になれば、市の方から家屋調査に行きますし、それが終わってれば、１月１日現在で建っていると判断させていただきます。

（３） 駅北地区におけるにぎわいの創出について

説明：齊藤復興推進課長

【質疑】

（女性１）

新聞等を読ませていただくと市の外部から事業者を募ったり若い力を取り入れていこうということが報道されており、素晴らしいことだと思います。小中学校でもふるさと学習などが行われていて、流れが合致してくると思うのですが、実質的なところ少子化がどんどん進み火災にあったところは特に子どもさんがいません。子育て世帯とか子どもが来て楽しむところをスローガンに掲げられていて、それはそれでいいかなとは思いますが、現実性はどうかかなというところが疑問に感じます。それと相反して確実に高齢化が進む地域で 60 代が増えていきます。高齢者についての対応が少し薄いのではないかなと感じます。未来を見るのはよいことですが、子ども子どもという割に高齢の方があまりケアされていないという感じを受けるのですが、その辺はいかがでしょうか。

（齊藤復興推進課長）

少子高齢化このエリアのなかの少子化ということを含めた実現性というお話ですが、今お話しさせていただいた子育てというのは市内全域の子育て世代の皆さんが、例えば一つのところで子育ての悩みを共有出来たりという環境をつくっていききたいというものです。高齢の方への支援ということが文言のなかに出てこないということについては、駅北の高齢者も含めたしっかりとしたコミュニティづくりというのは重要だと考えております。そうしたきっかけとして、にぎわい創出広場のちょっと寄りやすい環境、まちの茶飲み場のような感じで使っていただけるのではないかと思います。そういったところから皆さんの交流や生活が豊かになっていけるような場として整備していければと考えています。

（米田市長）

補足させていただきます。にぎわいの拠点は、子育て支援というのをベースに置いていますが、資料にある通り安心・学習・交流の場というもののなかに、周辺の方や高齢の方からも加わっていただく形にもっていきたいと思います。ただ、子どもと保護者だけということではなく、そういった方々をどのように位置づけし、加わっていただくのかということも考えていきたいと思っています。

（女性１）

火災前の状態では、駐車スペースがない、来てもあまり面白くないというような状態があったと思います。遠くからわざわざ親御さんが子どもを連れてくるかなと疑問に感じるころもありますので、あわせて考えていただければと思います。

（米田市長）

人が歩くことがまちのにぎわいであると思います。ひとつのお店だけお客さんが一杯いることがにぎわいではないと思いますので、大きい駐車場を作ることが

必要かなと考えたときに今おられる方からよそに出て行っていただかないとスペースが作れないわけでありまして、それではまちづくりにならないと考えておりました、今お持ちの駐車を市が買ってお使いいただいたり、今ある駐車場からまちのなかにどうアプローチしていくかとなったときに、例えば雨風をしのぐことも必要になりますし、雪も降るわけなので、そういったこともしっかりやりながら分散型の駐車場でやっていきたいと考えております。100%でないにしてもそういったものを周辺に位置づけしていきたいと思っております。

(男性1)

にぎわいの拠点施設についてですが、ようやく子育て支援というくくりのなかで重点的にそういう施設になるんだなということがわかりました。大町区民にとっては、あの場所にある建物が壊されてどんな施設ができるのかどんな店ができて人が集まるようになるのかという話題が興味関心の的になっています。

まずは、ここを子育て支援分野の拠点にしようということなのか、お聞きします。

(斉藤復興推進課長)

子育て支援の拠点として、若い人やお母さん、子育て連れの方を誘導していく施設ということになります。

(男性1)

イメージがつかみにくいので、具体的に説明していただけますか。そのことがどうしてにぎわいにつながるのか、資料にある「まちを訪れるきっかけの場」になるのか、外部の人がどうして訪れるようになるのかがよくわからないので、もう少しわかりやすく説明をお願いします。

(斉藤復興推進課長)

5ページ目の資料のところにイメージしていただきやすいような機能例を記載しています。子育て支援センター、学習室や図書スペースは小学生中学生など少し年齢の高い子どもが勉強をできる場、というのも今そういう子たちが放課後に過ごせる場が少ないといったこともあります。遊びの場については、糸魚川は雪国ですし、子育て世代のアンケートをとっても雨や雪が降っても広々と遊べる場が欲しいという意見があります。子どもたちが自由に安心して、またお母さん方も安心して遊ばせることができる場にしていきたいと考えています。また、子育てを核に色々な情報を交換できる場、グループでの活動ができるような場、周辺での就業等のために一時預かりといった保育園等ではサポートしきれない一時預かりで就業機会の場をつくっていくというようなこと考えています。

また、色々なにぎわいのイメージがあると思いますが、直接この施設が物を売ってお金を儲けてという環境をつくるというのではなくて、今までまちなかに見られなかった方々を呼び込んで、周辺での買い物などにつなげていけるよう、子育てという目的をもって今まであまり来ていなかった方を呼び込もうというものであります。

(男性1)

まちを訪れるきっかけの場とある、訪れるというのは外部の方ということだと

と思いますが、今の説明はそうではありませんでした。今ほどの説明は市内で子育て中の若いお母さんや子どもたちが集える場という説明でした。

(齊藤復興推進課長)

訪れるということに関し、市外からというイメージはあまり持っていません。ただ、子育ての機能ということで市外から来ていただくことも考えられますが、中心に考えているのは市民の方です。

(男性1)

わかりました。

(女性2)

にぎわい創出広場とにぎわい拠点施設の両方があり、少し混乱しています。両方の施設のイメージが自分が考えていたのと若干変わってきたかなという点があるので、まずにぎわい創出広場の方からお聞きしたいと思います。設計図も出されていますが、本町通りに住む者は、耐火基準や屋根の形、瓦など色々なことを市役所の方と検討しながら建物を建ててきました。設計図を見ると屋根の形がどうなっていて本町通りに向いているのか、雁木はどういう形でつくのか、軒下から雁木が出るのかといった建物の外形について、もう少し詳しい設計図を見せていただきたいのが1点です。また、中身の方もにぎわいの拠点施設の方とごっちゃになっているのですが、広場の方のオープンスペースをどう整備していくのか、オープンスペースがあるのであれば、ここに子どもたちの遊び場を作ればいけないかというようなことも考えられますので、両方の施設の区分けみたいなものをきちんと示していただかないと市民も混乱すると思います。もう少し具体的な素人でもわかるような図面を見せていただくとありがたいなと思います。

オープンスペースについては、私自身読み込んでいないので詳しくはわかりませんが、オープンスペースの使い方によっては、ここで十分子どもたちやお年寄り、まちにやってくる人たちが集えるスペースができるのではないかと。ここに重点的なものを持って行っていただければありがたいなと思います。

(齊藤復興推進課長)

にぎわい創出広場とにぎわい拠点施設ということで、整理しつつあるのですが同じような言い方なこともあって、なかなかわかりづらい面があるのかなと思います。広場の建物は基本的に本町通り沿いに雁木を作っていきます。雁木と建物の間は、だいたい13メートルぐらいになると思いますが、オープンな場所にしていきます。もともと広場ということで外使いをイメージしていたもので、雨や風の時でも使いやすいようにということで建物を計画しています。屋外スペースでイベントをやったり交流しているところを本町通り側からつなげていくような形を考えています。建物の中のオープンスペースについては、利用者会議などでいただいた意見でプロジェクターで上映会をやってはどうかとか、通常の会議使いもあるかもしれないとか、マルシェなどのイベントも外と中で一体でやれるのではないかと。ということで、色々なことに使えるように作りこまずに床と壁だけあるというようなイメージで考えております。キッチンスペースは、イベント時のセンターキッチンとして、食を提供したい方に使っていただくとか、日頃からカ

フェをやってもらうような形でお茶を出してもらったりというような環境をやってみたいという方がスタートしやすいようにして、うまくいったら、いずれは街の中に出て行ってチャレンジしてもらおうというようなイメージで考えています。

建物の形態については、皆さまにもお願いしている部分の道路側への平入りということでそのようにいたします。その後ろの部分は、お隣の建物がイメージしやすいと思いますが、裏の方は反対向きの切妻の屋根になります。本町通り側にここでいろいろと楽しんでいるよという雰囲気を出したいというところを主眼において、現在設計を進めています。今のところ皆様にお示しできる内容はこのぐらいです。

(米田市長)

補足させていただきます。拠点施設の方はさきほど説明があったとおりですが、広場の方はこのようなスペースが出てきたものですから、どうすればいいのかといったときに色々なイベントをやってきました。非常に使い勝手が良くて、中心市街地のなかでイベントをやることによって色々なインパクトが出ている部分があります。ここを色々なイベントをする広場に使うっていいよということでも考えたのですが、私どもの地域は11月に降天候も悪くなり、屋根も欲しいね、壁もないと雨風が入ってくるねということになったわけでありまして。そして、ただイベントだけではなく、普段のまちづくりのなかにおいても生かしていくことができないのかといったときに、大きいイベントもやれて、ちょっと小さなこともできて、日頃から皆さんがそこに集まれるような環境を作っていきたい。ただ、じゃあそういうものを作ってほかのところに行かなくていいのかということでもなく、まち全体に回遊していくようにしなければ、まち全体が盛り上がっていきません。そういうことからここには店を作るのではなくて、イベントをやれたり、少し試験的にいろいろなことがやれるように、また飲食もできるようにということでキッチンもあがってきたわけでありまして。

ということで、あくまでも全天候型の広場という形で作っていきたいということですし、拠点の方はさきほど申し上げましたような形ですみ分けをしていきたいと思っています。最初は、拠点施設の方ですべてそういうことをやっていこうよという話もありましたが、広場の方の土地も出てきたことから、そういったふうに分けて、少し離れてはいるのですが、うまく使ってにぎわいに持っていきたいということでもあります。

(齊藤復興推進課長)

一点補足させていただきます。防火の関係ですが、準耐火建築物ということで皆様にもお願いしている並みの防火性能は確保させていただきます。

(女性3)

5代続いた土地を手放す決断をして今東寺町の方に住んでいます。私は、今回のことがプラスになって糸魚川の新たなまちづくりができたらと願っています。今東寺町に住んでいて、毎日小学校に通うたくさん子どもたちを見えています。父は毎日ゴミ出しに行き、喜んで子どもたちと会話をしています。大町にいた

ときは、子どもの姿を見ることはあまりありませんでした。これからの糸魚川を育てていってくれる子どもたちが住みやすいまちであることを願いますし、子ども消防団ができたこともうれしく思い、陰ながら応援させていただきたいと思っています。もう一つ思うのは、今住んでいるところは、山も見えて環境がいいのですが、まちに出ていくのに車がなく、毎回タクシーを利用しています。今ここにある子育て施設にお母さんたちが子どもを連れて来たり、子どもたちが自分の力で小学校や中学校からどのようにして来るんだろうかと思いました。お母さんたちがまちで買い物をしている間、少し子どもを預かってもらって遊んでいてねってことになるとうやはり車なのかなと思います。そうすると車の置く場所や交通網が平行していかないと燃えたところの子どもたちの数はあまりにも少ないので、今ある建物を全部壊して新たな建物を建てるとなると無駄にならないように、それじゃああそこに行ってみようかとなるようにするには、そこらへんのこととも平行して考えていかないと無駄な建物だけ建ってしまうのではないかと思います。

ちょうど娘が愛知県の一宮にいて1年に1回ぐらい行くのですが、駅には子どもたちがたくさんいて、何なんだろうと思ったら駅の上に図書館があるんです。それでオープンスペースもあって学校帰りの子どもたちがそこで集まって勉強しているんです。保育所もあって市の出張所もある。1階にはスーパーもあります。駐車場は狭いかもしれませんが、なるほどなと思いました。人が集まってくるような施設は、駅降りたらそのままということもあります。今日は、こういう説明会があってまちに出てきてまちをぐるっと歩こうかなと思いますが、交通のこととかも平行していかなければと思いますし、そうやって子どもたちがまちにたくさん来てくれれば、おじいちゃんおばあちゃんたちも子どもたちの姿を見ることですごいパワーをもらうんです。おじいちゃんおばあちゃんにとってもまちに出てみようかなということになるかもしれないので、そういうことも考慮してもらえたらなと思います。

(齊藤復興推進課長)

今後、拠点施設につきましては、どのような内容にしていくかということについて、どんどん詰めていく場面が出てくると思っています。色々なご意見を伺いながら今ほどご提案のあったような皆さまに使っていただきやすい施設を目指していかなければいけないと思っています。

議題(4)

(4) その他

【質疑】

(男性2)

今日の説明項目にはないことですが、諏訪神社の近くの道路の美装化についてあれが完成形となるのでしょうか。というのも道路の石畳風の加工がされていて、神社の松の葉が溝にはさまってしまい、たまには掃除をするのですが、掃いてもなかなかとれません。そういったこともありますし、銀杏の実が落ちてタイヤに踏まれた殻がまた溝に入ってなかなかとれないという状態です。

もう1点、春よしさんの裏の道路拡幅工事はいつ頃から始まるのでしょうか。

前の説明では10月頃にということでしたが、年内に始まるのか。

もう1点、家の前に消雪パイプをつけてもらいましたが、昨年は水が出なくて不自由しました。今年は使えるのかお聞きします。

(五十嵐建設課長)

道路の美装化は私どもも初めての経験でございます。お話をいただいた場所を先行してやらせていただいて、切れ込みの目の大きさですとか水を出した時の流れ方などを試験的に施工させていただきました。そのようななかで溝の間に松の葉や銀杏の殻が挟まるというのは正直想定していなかったところでありますので、その部分についてはどうやって管理していくのかという宿題をいただいたかと思えますし、この先やっていくところをどういうふうにしていけばよいかということは考えてまいります。施工済み部分の維持管理については、市役所の方で預かり検討いたします。

道路の拡幅工事については、準備が整い次第進めていきますし、工事に入る前に周辺の皆様方にチラシ等で期間や交通規制等についてご案内させていただきます。

3番目の消雪パイプについては、点検を行っており11月15日くらいから雪が降れば水が出るという状態を確保しておりますが、降り始めのときは事前に調整していても一度に水を出すと水の出がおかしいところもでてきますので、おかしなところがありましたら市役所の方に連絡をお願いします。

(男性2)

カッターの溝については、深すぎるのではないかなと思います。もう少し浅めであれば掃くのにも楽なのかもしれません。

閉会